

香港の題材を生かした道徳資料の開発

前香港日本人学校小学部香港校

埼玉県川口市立十二月田小学校 教諭 漆山 和子

1 はじめに

香港は、古くからアジアにおける交通の要所であり、植民地時代から金融や流通の要所でもある。今日ではロンドン・ニューヨークと並ぶ世界三大金融都市として知られ、香港には多くの企業や人々が集まっている。1997年に香港はイギリスから中国へ返還された。しかし、現在は特別行政自治区としての自治権が認められており、香港政府による政治が行われている。

香港日本人学校では、「国際社会の中で互いを認め合い、豊かな心と確かな学力をもち、自立したたくましい児童の育成」を目標に教育活動を展開している。平成25年度は、「日本や香港の歴史や文化などを大切にしようとする児童、日本や香港に興味をもち人々と積極的に関わろうとする児童の育成」を主題に掲げ、様々な教科、領域を通して、「日本や香港の習慣や文化、人々の考え方について知ったり理解を深めたり、自分との関わりを見つめたりすることで日本や香港のよさに気付き尊重する態度が養われるだろう」という仮説のもとに研究を進めてきた。ここでは、香港の題材を生かした道徳の「自作資料」を開発した実践について紹介したい。

2 実践事例

(1) 児童の実態アンケート 1年1組30人回答

○一番思い出にのこっている国はどこですか。

日本18人 香港11人 そのほかの国(カナダ1人) わからない0人 決められない0人

○日本のことをどう思いますか。理由も書きましょう。

とても好き26人 好き4人 あまり好きではない0人 好きではない0人

・おじいちゃん・おばあちゃんがいる	・桜がきれい
・友達がいる	・雪が降る
・きれい	・日本語が通じる
・優しい	・自転車に乗れる

○香港のことをどう思いますか。理由も書きましょう。

とても好き9人 好き12人 あまり好きではない4人 好きではない5人

・席を譲ってくれる	・公園が楽しい	・水道の水が飲めない
・優しい	・押された	・汚い
・話しかけてくれる	・地震がない	・ごみ箱ではないところに捨てる

○香港人のよいところはどこですか。思いつくことをすべて書きましょう。

・席を譲ってくれる	・あいさつをしてくれる	・親切
・優しい	・ない	

○香港にいる日本人ではない人と学校の外で話したり遊んだりしたことはありますか。

よくある 11人 ある 9人 あまりない 6人 まったくない 4人

○自分からすすんで日本人ではない人に話しかけたことがありますか。

よくある 10人 ある 9人 あまりない 6人 まったくない 5人

アンケートの結果から、日本のことが「とても好き」であり日本のよさを多く挙げている児童が多くいることが分かった。しかし香港については、香港のことが「とても好き」という児童より、「好き」と答えた児童の方が多い。香港のよいところについての回答があまり広がらず、中には「汚い」や「水が飲めない」などといったマイナスイメージをもっている子がいた。「ない」と回答する児童も7人いた。ほとんどの児童が日本のよさを感じることができているという実態を踏まえ、授業を通して今住んでいる香港に目を向け、もっと香港のよさや素晴らしさに気づかせていきたいと考えた。

(2) 自作資料について 資料名「ぼくのまちへおいでよ」

本資料は、父親の転勤で仲良しの友達と別れ嫌々ながらも香港へ行くことになった主人公「ぼく」が、香港で出会った自然や食べ物、人などの香港の環境に触れ、元気を取り戻し香港が好きになる。そして、友達の「ゆうくん」に自分が好きになった香港を紹介しようと手紙を書くという資料である。

まず、突然「香港へ行かなくてはならない」と言われ、仲良しの友達がいる日本を離れて、よく知らない土ない場所の香港へ行くのが嫌になっている主人公の気持ちに共感させていく。次に、香港の自然や食べ物、人物に出会い、香港を好きになった主人公の気持ちに気づかせていく。そして、主人公の好きなまちと自分の住む香港を重ね合わせることで、香港のよさに気づかせていきたいと考えた。

資料の中にあるように、自然や食べ物、乗り物など、「よさ」の意味合いを好きという感覚として捉えることで、今まで意識をしていなかった香港のよさに気づくことができるのではないかと考えた。

(3) 香港を題材とした他教科・領域との関連 ☆ねらい ○学習活動

生活 「なつだ いっしょにあそぼう」5月、6月実施

☆香港の自然、公共施設、人々などに関心をもつ。

○香港の自然を利用した遊びを考えたり、公共施設を大切に安全に気を付けて遊んだりする。

「ほんこんのおともだち」6月実施

☆香港に住む人々に関心をもち、積極的に関わる。

○遊びや英語によるコミュニケーションを通して香港の子どもたちと交流する。

「いきものとなかよし」10月、11月実施

☆香港の動植物に興味をもち、触れたり観察したりする活動を通して香港の自然に親しむ。

○ジャーディン山で虫取りをしたり動植物公園にいる動物を観察したりする。

「たのしさいっぱい」12月実施

☆季節の変化に気づき、香港の自然に親しむ。

○身近な自然を観察したり秋の草花や木の実などを利用し、工夫して楽しく遊んだりする。

3 活動の実際

(1) ねらい

自分の住んでいる地域の様子を考え、香港のよさを見つけようとする心情を育てる。

(2) 学習活動の展開

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点 (○) 評価 (★)
導入	1 校外学習で行ったクリアウォーターベイやジャーディン山の写真を見て話し合う。 「一・二学期の校外学習でいろいろな場所に行きましたね。」	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャーディン山 ・香港動植物公園 ・クリアウォーターベイ ・砂浜遊びしたよ。 ・楽しかったね。 ・大きな虫がいたよ。 ・ビーチ、きれいだったね。 	○写真を提示し、本時のねらいとする価値への方向付けをする。
展開	2 資料の範読を聞き、話し合いの方向性をつかむ。 ・資料について知る。		○登場人物、条件・状況をおさえる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>〈条件・状況〉 主人公：ぼく 相手方：ゆうくん、おかあさん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月から香港へ行くことになった ・知らない場所へ行くことや仲良しのゆうくと離れるのが嫌。 </div> ・資料の範読を聞く。 ・話題を整理し、話し合いの方向性をつかむ。 3 主人公の心の変化を中心に話し合う。 ①お母さんから「香港へ行く。」と言われたとき、ぼくはどんなことを思ったでしょう。 ②香港のことをいろいろ知ったとき、ぼくはどんなことを考えていたのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・えー。 ・いやだな。 ・ゆうくんとはなれたくないな。 ・ほんこんって、どこだろう。なにがあるのかな <ul style="list-style-type: none"> ・いがいいいところがあるね。 ・きれいなところもあるよ。 ・たのしいよ。 ・おいしいものだってあるよ。 	○主人公の気持ちになって聞くように伝える。 ○範読の後、心に残ったところを発表することを伝える。 ○急に「香港へ行く。」と言われ、嫌な気持ちになっているぼくの気持ちに共感させる。 ○香港のいろいろなものに出会って元気になり、香港を好きになっているぼくの気持ちに気づかせる。

	4 香港のよさについて考える。 ③みんなの住む香港にはほかにどんなよいところがありますか。自分が紹介したいことを考えましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・高いビルがたくさんあるよ。 ・トラムがあるよ。 ・ほんこんの人がせきをゆずってくれたよ。やさしいな。 	★香港のよさを知ってぼくの気持ちに変化したことに気づくことができたか。(ワークシート、発言、観察)
終末	5 教師の説話を聞く。		○ねらいに関わる教師の説話を聞き、香港のよさを見つけようとする意欲を高める。

(3) 児童の感想

- ・ぼくも（主人公のぼく）と同じでした。もっと香港のよさを見つけていきたいです。
- ・香港にはすてきなところがいっぱいあるんだね。
- ・香港の人が席をゆずってくれてうれしかったです。香港っていいところだな。
- ・香港には MTR や2階建てバスがあって楽しいよ。



4 成果と課題

自作資料は多くの児童が経験をしている場面を取り入れた、子ども達にとって身近なテーマだったので話し合いが活発に行われた。共感しやすく、「ぼく」と自分を重ね合わせて主人公の気持ちを考えることができた。また、香港のよさを限定的に捉えるのではなく、自然・人々・施設・文化など多面的に捉えることで低学年なりに香港人のよさにも気づくことができた。日頃何気なく感じている香港のよさを意識させることは、価値の自覚につながると感じた。今後香港の人とより進んで関わろうとする意欲を高めるための工夫が必要である。

5 おわりに

香港日本人学校に赴任し、多くの人との関わりの中で香港の文化や自然、歴史などについて様々なことを学ぶことができた。今回道徳自作資料を開発するにあたり、自分自身も香港のよさをより深く感じることもできたとともに、外から見た日本のよさも気づくことができた。また、日本と違う環境の中、明るく元気に逞しく生活する児童の教育に携わることができたことは、私の教員生活にとって最高の財産となった。今後は、日本人学校での経験を生かし、香港をはじめ世界の様々な国への理解を広げる教育を進め、国際社会に活躍できる児童を育てていきたい。

最後に、派遣にあたりお世話になった日港すべての方々に深く感謝申し上げたい。